

# 令和7年度第1回阿賀野市総合教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和7年7月24日（木） 午後3時00分～4時15分
- 2 開催場所 阿賀野市市役所4階「委員会室」
- 3 出席者 市長 加藤 博幸、  
教育長 小泉 明美、  
教育長職務代理者 渡邊 栄二、  
教育委員 小川 寛子、佐久間 正浩、福井 真弥
- 4 欠席者 なし
- 5 説明員  
総務部 部長 保科 和文  
学校教育課 課長 五十嵐 貴幸  
管理指導主事 新井 達夫  
生涯学習課 課長 塚野 敏之
- 6 会議書記 学校教育課 課長補佐 古田島 理枝子  
主 任 富岡 亜子
- 7 議 題 部活動の地域展開について

午後3時00分 開会

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 五十嵐課長 | <p>定刻となりましたので、ただ今から「令和7年度第1回阿賀野市総合教育会議」を開催いたします。</p> <p>本日は全員出席で、欠席の委員はいらっしゃいません。</p> <p>本日、議案説明のために出席する者は、総務部からは保科部長、生涯学習課からは塚野課長、学校教育課からは新井管理指導主事と、私、五十嵐 です。</p> <p>会議書記は古田島学校教育課長補佐と富岡主任です。</p> <p>それでは、最初に加藤市長から御挨拶をお願いいたします。</p> <p>加藤市長、よろしくお願いいたします。</p>                                                                                                                                                     |
| 加藤市長  | <p>皆さん、暑い中御参集いただきましてありがとうございます。</p> <p>教育部門でもいろいろと課題が多いと感じているところであります。</p> <p>先般、県内市町村の教育長と教育委員の会合がありましたけれども、そこでも部活動の地域展開についていろいろと議論されたかと思います。</p> <p>また、先の通常国会の各委員会でも、中学校の部活動のことについて議論が交わされておりました。</p> <p>そういう中で、阿賀野市は阿賀野市の地域の実情に合った、あるいは現場に即したあり方をやはり皆様方とともに協議しながら、皆さんに受け入れられるような体制づくり、その環境づくりをしていくことが大事なのかなと思っています。</p> <p>指導者の育成などを含めて、地域の方々の関わりについても、子供たちの活動に我々大人がどのようにサポートしていくのか、課題は多くありますが、皆様の御意見をいただいて今</p> |

後にいかしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

五十嵐課長

ありがとうございました。  
本日の会議は、事前にお配りいたしました次第のとおり進行します。  
それでは、議長である加藤市長から会議の進行をお願いいたします。

加藤市長

それでは次第にしたがって進行していきます。  
3 協議 ですが、まず「(1) 部活動の地域展開について」協議・検討してまいります。  
最初に、事務局から資料の説明をお願いします。

古田島補佐

部活動の地域展開につきましては昨年12月の令和6年度第2回の総合教育会議でも説明させていただいたところではございますが、改めて、国や県の動向、阿賀野市の今年度からの取り組み、課題などについて説明させていただきます。

まずは1 目的と理念です。

国は、急激な少子化が進む中で将来にわたって生徒が継続的にスポーツ、文化、芸術活動に親しむ機会を確保充実することが主目的だとしております。そして、学校単位で部活動として行われてきたスポーツ、文化、芸術活動を地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障することが改革の理念だとしております。

これらを受けまして、阿賀野市は地域クラブを開設しまして、競技力の向上、試合の勝敗のみにこだわることなく、豊かな人間性の育成を目指すことを目的としまして、地域展開を進めているところでございます。

下のグラフをご覧ください。阿賀野市の平成16年度からの生徒数の推移です。

令和12年度は現在の児童数から見込み数を算出しております。

右側に阿賀野市の人口を記載しています。人口は平成16年度の4万8803人から20%減少、生徒数につきましては平成16年度から現在37%も減少しております。そして、5年後の令和12年度には、平成16年に比べまして45%も減少するということが、人口も減少していますが、少子化はそれ以上に急激に進んでいるということがわかります。

これらのことから、部活動の地域展開を進めるのは非常に重要なことだと認識しております。

次に、2 国の進捗動向です。

国は昨年12月から今年の5月までに行いました地域スポーツ、芸術創造活動改革に関する実行会議で、以下の通りまとめました。

休日につきましては、令和8年度から13年度までの間に、原則全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す、としております。

平日につきましては、なかなか難しいということもありまして、国においてまず活動のあり方とか課題への対応策の検証等を行うとともに、地方公共団体において、地域の実情に応じた取り組みを進める、としております。

これらを進めるために、受益者負担と公費のバランス等の費用負担のあり方を検討することで、受益者負担の水準を国において金額の目安を示すということを現在検討しております。また、地域クラブの活動の定義、要件、認定方法なども国が示すとしております。

国は令和7年度、今年度の冬に総合的なガイドラインを改定するとしております。

次ページをご覧ください。3 新潟県の進捗・動向です。

こちらの地図、図はこの3月末時点の市町村の地域クラブの設置状況です。2ページがスポーツクラブ、3ページが文化芸術クラブとなっております。

スポーツクラブについては、29市町村が設置済で、県内30市町村のうち、長岡市だけが未設置、ゼロとなっております。ただ、長岡市も今年度から活動始めるということで進んでいますので、今年度中には全市町村で地域クラブが設立されるということになります。

また、これは3月の状況ですので、この4月からは地域クラブの数が増えております。

例えば近隣で言いますと、新発田市は2と書いてありますが、今現在7つの地域クラブが活動しております。聖籠町でも3ではなくて7、阿賀野市も10、五泉市も4ということで、どこの地域でも地域クラブが増えているという状況です。

令和8年度中に県内市町村の99%の部活動が地域展開する見通しとなっております。

文化芸術クラブの方をご覧ください。

こちらはスポーツクラブと違う状況でして、12市町村でしか地域クラブがあまり立ち上がっていません。もともと文化芸術クラブについては、吹奏楽部ぐらいしか土日の活動をしていないので、もともと活動のしている部活動が少ないというのも原因の1つですが、吹奏楽部というのが、楽器を使うというところで、特殊な部活動であるところも地域展開が進んでいない原因だと思われ、大きな課題となっています。

ただ、吹奏楽部にこだわらず設置しているところもあります。例えば、書道、競技かるた、ギターなど、いろんな取り組みをしている自治体もあります。

以上が県内の状況です。

次は4阿賀野市の状況になります。皆様ご存じの通り、休日の活動については展開中です。生徒たちは、休日の活動について、部活動か地域クラブか選択が可能となっております。現在9種目10団体の地域クラブが活動中です。一部、平日活動を実施しているクラブもあります。

生徒の加入者数は全部で159人となっております。去年は7団体で99人でしたので、3団体増えたことで、加入者数が増えています。

指導者は10団体で58人です。少ないところでは指導者3人のところもあれば多いところで9人のところもあります。

中学校の部活動の加入状況ですが、令和6年は77.9%加入しておりましたが、例えば7年には63.8%ということで、以前は部活動への加入を義務付けられていたこともありますが、今は義務ではありませんので、徐々に減少していると思われます。

今年度から阿賀野市として取組を始めたものがいくつかございます。

まず1つ目として、運営主体業務の一部を阿賀野市総合型クラブのスポアへ業務委託しております。指導者謝礼の支払いやスポーツ保険の加入求償手続き、指導者研修を行っていただきます。昨年度まではなかなかできなかったのが、指導者の質向上のために指導者研修を行い、そして、平日の移行等を円滑に進めるためにも運営主体の移行を推進しているところでございます。

下にイメージ図がありますが、今は教育委員会とスポアが並列で協力連携しながら手探りで進めているような状況です。今後は徐々に移行して、運営主体を総合型クラブにお願いしたいと思っていますところです。

次のページをご覧ください。

吹奏楽部の地域展開については先ほどなかなか進まないと説明したところですが、阿賀野市で地域クラブを立ち上げるべく、その足がかりとしまして、まず4中学校の吹奏楽部に部活動指導員2名を配置いたしました。各学校とも月2回程度、部活動指導員が土日の部活を指導しております。

また後でも課題の方でお話しますが、吹奏楽部の活動につきましてはいろいろ課題が多いところでございます。

そしてもう1つ、今年度からやっている取組としまして、児童生徒大会参加費補助金という以前からある制度において、この支給対象者に地域クラブ指導者2名分を追加したところですが、そもそもこの制度ですが、中体連の大会に市内の生徒が参加する場合に、その参加費、そして交通費、宿泊費を補助する制度です。

下越大会の場合、市内開催であれば交通費はかからないですが、市外開催になるとバス代が必要になるのでバスの借上料に対して補助しています。佐渡開催の場合はフェリー代などを含めてすべて補助しておりますし、北信越大会や全国大会に行った場合も、基本的には全額補助しております。昨年度で地域クラブの指導者は補助対象外だったのですが、部活動の顧問は公費負担なのに、地域クラブも部活動と同等の扱いということにしながら、部活動と違う扱いになっていましたので、今年度から指導者2名分までを補助対象としました。

これについては、国が「先進的な取組である」ということで、国の実行会議の資料に掲載されました。資料の一番後ろに添付しました。7月10日にもスポーツ庁の職員からヒアリングを受けまして、今度、全国の取組事例集に掲載するということになりました。他の自治体でも補助をやっていますが、例えば全国大会のみ全額補助であったり、宿泊費の半額補助であったりと、全額補助している自治体はほとんどない、というところでスポーツ庁の職員も関心を寄せられていました。

昨年度の実績としましては、累計 279 人で、314 万 9000 円の補助をしております。

来年度に向けて、ですが、まず、地域クラブがない部活が、男子バスケットボールと陸上のトラック・フィールドの 2 種目ありますので、指導者の発掘などを調整しております。予定では令和 8 年度は 12 団体になる予定です。

令和 8 年度の夏以降、休日の部活動は原則行わないとしております。この方針につきましては全中学校の生徒、教職員にもお示ししていますし、中学校の新入生入学説明会の時にも保護者と生徒に説明しているところです。

平日につきましては、平日指導できる方がなかなかいないこともありまして、当面継続予定としております。地域クラブでも平日活動しているところはありますが、活動時間が夜間になってしまうため参加できない生徒もいて、指導者も簡単には見つからないという状況です。

先ほども少し話をしましたが、今年度から総合型クラブに運営主体を一部移行しております。現在教育委員会の職員としてコーディネーターが 1 名いますが、来年度にはコーディネーター業務もスポアに移行して、総合型クラブがメインの運営主体としてやっていただくことを検討しております。

「地域おこし協力隊の活用も検討」と記載していますが、コーディネーター業務のほか、平日の部活動・地域クラブの指導者、そして、平日の地域クラブの活動を全体的に進めてもらうために、地域おこし協力隊を活用することを検討しております。

もちろん、総合型クラブ任せということではなく、市と総合型クラブの協力・連携のあり方を模索していかなければならないと考えています。

最後に、5 課題です。

先ほど言ったとおりで、夜の活動ができる指導者はいますが、平日のいわゆる部活動の時間帯に指導する指導者がいない、これがとても大きな課題で、全国的にも一番の課題が「指導者の量の確保」となっており、ここは本当に難しいところです。

今の阿賀野市の地域クラブの指導者についても、58 人全員がお仕事をされている方で、部活動の時間帯に指導するというのは難しい状況です。

平日夜間に活動できれば良いのですが、その時間帯はスポーツ少年団や各種団体が活動しており、活動場所が不足している、という課題もあります。

そして、活動場所での交通手段がないです。

例えば水原中学校でやる場合、他地区の生徒は、土日であれば親御さんに送ってもらうこともできますが、平日夜間はなかなか難しい、というところもあります。そして、先ほど夜間は活動場所がないから平日昼間の時間帯に活動したいと申し上げましたが、平日昼間は逆に移動手段がないというジレンマがあります。現在は自転車と保護者送迎のみしか移動手段がなく、市内の公共交通機関を使うのもなかなか難しいですし、例えば巡回バスを運行したとしても、一周する間にクラブの活動時間が終わってしまう、ということで良い方策を探っているところです。

「移動手段の確保」ですが、課題だと思っている割合について、新潟県の割合が全国平均に比べてかなり高くなっており、新潟県としても大きな課題だと言えます。

それ以外で課題になっているのが受益者負担のあり方です。種目によってかかる費用がかなり異なります。

例えば野球だと昨年度は 1 人当たり平均約 2 万 4,000 円となり負担が大きいところですが、柔道であれば柔道着だけあれば良いので、種目によってかなりかかる経費が違います。

例えば一律で月 2,000 円徴収します、となると、それでは足りない種目もあれば余ってしまう種目もあり、どのように負担を求めていくべきなのか苦慮しているところです。

公費負担とのバランスについても、大会参加費に対しては補助金で全額補助していますし、指導者の謝礼も今、市で負担しています。これらの経費に対して、今のところ国から補助金が出ていますが、その補助もいつまで続くのかわからないので、今後も引き続き続けるのか、それを受益者に求めるのか、そこも非常に大きな課題となっています。今年の 8 月頃に国が金額の目安を示す方針ですのでそちらも参考にしながら阿賀野市のあり方も考えていかなければいけないなと思っております。

そして、地域クラブの活動の要件や基準の明確化、ですが、地域クラブの活動時間が土日だけだと活動量が足りない、特に一生懸命活動する地域クラブは、足りないという話が聞こえ

てきます。部活動と同様に土日の活動はどちらか1日必ず休む、そこは守ってもらっているところですが、例えば土日に宿泊を伴う練習試合に行ってきた場合、翌週の土日は休んでください、となると活動が制限されてやりづらい、という声をいただきます。

勝たせたい、一生懸命やらなきゃ、となると地域クラブとしてはどうなのか、いっそのことクラブチームとして活動した方が良いのでは、という議論にもなっているのですが、ここについても今後国の示す基準や要件を参考にしながら検討していきたいと思います。

最後に、吹奏楽部の地域クラブ化が難しい、というところで非常に頭を抱えております。

まず楽器の運搬です。例えば水原公民館のホールに楽器をずっと置いておけばよいのですが、スペースがないので、では毎回みんなで楽器を持ち寄って地域クラブ活動をする、というのも現実的ではないと思います。

活動場所は学校内で、ということになりますと、指導者について、今は部活動指導員という肩書で各中学校に行き指導していただいています。部活動指導員は市の会計年度任用職員で、市の職員という立場なので、校内に入って指導することについても校長から許可をもらっていますが、地域クラブの指導者となると、学校とは関係のない全く外部の人間なので、校内に入って指導することに対して許可をもらえるのかが非常に難しいところです。

学校外に集合する場合は楽器の運搬が大変、各学校で活動する場合は校内に入るのが大変、そのあたりが吹奏楽部を地域クラブ化するのに難しい点だと思います。

ただ実際に部員数も減っている学校もあり、2～3の学校が一緒になって大きな編成で演奏ができた方がよい面もあるので、年に1～2回集まってということはしていますが、毎日、毎週というのは難しいという課題があります。

資料の最後に参加者・指導者の声を載せています。参加している生徒も楽しんでますし、指導者も本当に一生懸命で、熱心な方たちが多いので、教育委員会としてもすごく助けられているところです。

説明は以上です。

加藤市長

ありがとうございました。

今説明を聞いて、余りにも幅が広すぎて、限られた時間内で全てを議論するのはまず無理だと思うので、この資料に沿って、今日はここまで、残りは次回、というように、地域クラブ活動一つとっても1回の議論で終わるような案件ではないので、今日は時間の範囲内で行けるところまでということにしたいと思いますが、最初に皆さんの方で説明の中でこれは確認したいというのがありましたら、と思いますが、よろしいですか。

最初に私からリードさせてもらいます。

資料の1ページ目で、目的・理念のところにありますが、そもそも一番大事なのは「地域全体で関係者が連携して支え」となっていますが、そもそもこの「地域全体」の中身をどうとらえるか、国は何を想定して言っているのか。国が何も具体的なことを言わないとしても、阿賀野市は地域全体で関係者が連携して支え、の、阿賀野市にとってのこの「地域全体」は何なのか。たまたま今スポアはあるのかもしれませんが、スポア以外にはどういうものが想定できるのか。

今説明があったように、クラブ活動の種目別にスポーツは指導者58人、ただ文化芸術クラブのことも含めたら、それだけで良いのか、もっと指導者を増やさないと、というところもありますが、「地域全体」がどういうものか明確でないと、お願いするにしてもどこにお願いして良いのか、あるいはどこの誰と検討すれば良いのか、というところが見えてこないと思いました。

例えば文化系であれば、絵画、書道などいろいろありますが、将来指導者を依頼するときにどこに頼もうか、となったとき、思いつくのは、春や秋に発表会や展示会を開催している年配の方々のサークルがあって、そういう方々は、時間があるから子供たちが来たら教えてもいいみたいな意見もあるわけです。

しかし、我々が地域全体というものがどういうものかというイメージを持っていないと、依頼にも行けないというところもあって、そもそも我々は何をイメージするのかというところが大事だと思います。

それから今話があったように、国が8月末までに方針を示すようなので、それを受けて、阿賀野市として何ができて何ができないのかという議論が出てくるのでは、と感じました。

|       |                                                                                                                                                                                                    |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | <p>あとこの課題は、物理的な課題と、それ以外の課題があるので、ここを分けて考えないといけないと思います。</p> <p>担当部署としても、スポーツ関係の地域クラブ活動はまずまずうまく行っている感じがするのでは。</p>                                                                                     |
| 古田島補佐 | はい。                                                                                                                                                                                                |
| 加藤市長  | <p>何だかんだ言っても、課題は男子バスケットボールくらいのものかな。例えば空手については道場で行う、そういう住み分けもしっかりできていれば良いと思います。</p> <p>阿賀野市としてどの種目を地域クラブ活動で行うのか、スポーツ協会との兼ね合いは何かあるものですか。</p>                                                         |
| 古田島補佐 | <p>推進検討会議のメンバーになっていただいております、あと、スポーツ少年団の指導者がほとんど地域クラブの指導者になっていただいております。</p> <p>阿賀野市はありがたいことにスポーツ団体がたくさんあるので、そういう意味では指導者も比較的確保できている方だと思います。</p> <p>土日はこういう形で何とか進めていけていますが、平日の指導者の確保がネックにはなっています。</p> |
| 加藤市長  | 国が平日の指導に対して給料を出します、というのであればまだしも、実際無理だろうから、これは全国共通の課題だと思います。                                                                                                                                        |
| 古田島補佐 | <p>今水原中学校が退去時間、部活動の時間を短くして、いわゆる先生の勤務時間、午後4時30分が終わるまで、4時30～40分までには部活動を終了する、ということをこの7月から始めています。</p> <p>教員の多忙化解消の視点も大きいかと思うんですけども、部活動については、活動時間をギュッと短くしています。</p>                                      |
| 加藤市長  | 部活動は平日毎日行っていますか。                                                                                                                                                                                   |
| 古田島補佐 | 平日のうち1日は休みです。                                                                                                                                                                                      |
| 小泉教育長 | 国の方針なので全国津々浦々どこでも同じです。                                                                                                                                                                             |
| 加藤市長  | 皆さんで他に御意見はありますか。                                                                                                                                                                                   |
| 佐久間委員 | スポアとスポーツ少年団との擦り合わせはしていますか。                                                                                                                                                                         |
| 古田島補佐 | そこはしていません。スポーツ少年団はスポーツ協会の管轄です。                                                                                                                                                                     |
| 佐久間委員 | スポーツ少年団は小さい子供から中学生まで加入していますし、地域クラブの活動において無視できない、複雑に絡み合っているところもあるのではないですか。                                                                                                                          |
| 古田島補佐 | <p>例えばバドミントンは複数のスポーツ少年団があるので、そういった部分も確かにありますが、どこに所属するかは生徒の選択です。</p> <p>バドミントンは3つのスポーツ少年団の指導者が集まってこの地域クラブを作っています。その指導者に教えてもらいたいと思っている子供たちは地域クラブに入っていますし、元々のスポ少のその上の団体が良いという子供たちはその団体に所属しています。</p>   |
| 佐久間委員 | コーディネーターがいらっしゃるということですが、そういう擦り合わせはされていますか。                                                                                                                                                         |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 古田島補佐  | <p>特にはしていません。地域クラブは地域クラブで指導者を認定して活動しています。スポーツ少年団で活動したい生徒はずっとスポーツ少年団に所属して活動しています。</p> <p>ただし、スポーツ少年団に所属していると中学校体育連盟の大会に出場できません。大会に出場するためには部活動か地域クラブに所属しなければなりません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 佐久間委員  | <p>わかりにくいですね。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 古田島補佐  | <p>まず、土日の部活動を止める、ということをメインの目的にしている、その土日の活動を止めるにはそれに代わる活動を用意する、というところから地域クラブができた、という面があると思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 加藤市長   | <p>教員の負担軽減のために、土日の活動はできるだけしない、ということ。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 小川委員   | <p>先ほど市長がおっしゃった、地域全体で支えていく、というところですが、その前段として、今まで学校単位で部活動として行われてきたスポーツ文化芸術活動を、という前段があって、市も地域クラブも、まずはこの部活としてやっていたものを移行していかなければいけない、ということで動いていると思いますが、部活動の全てを地域で賄うというのは難しい面もあるのではないのでしょうか。何が大事かという、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ文化芸術活動の日に親しむ機会を与えていく、やっぱそこが一番大切なんじゃないかと思います。</p> <p>スポ少や中体連との関わりは大きな問題にはなってくるかと思いますが、大人でも続けていけるものがありますので、そういったところを踏まえて、大人になってもこの阿賀野市でスポーツ文化に触れることができる活動がもう既にあるという部分を逆に捉えて、そこに向かっていけるような、夜の活動に中小学生も中学生も大人もみんな関わられるような仕組みができていったら、地域全体で支える、というところもクリアしていくのかなと思っています。</p> <p>競技力の向上、試合の勝敗のみにこだわることなく、豊かな人間性の育成を目指す、ここにも大事な要素があると思っています。</p> <p>今、地域クラブに移行しつつありますが、勝敗にこだわる保護者が、何で負けた、練習が足りない、ということになってしまうことがあります。そんな中指導者の育成も難しいと思いますが、国が部活動の地域展開を進めているので、もう、部活動というものはもう全くなし、新しく地域で子供たちとできるものを考えていくというように展開できたらなど。</p> <p>スポアについても、長くこの地域でスポーツに関わっている団体だと思うので、知恵を借りながら、運営していくっていうところまで何か道筋を作っていけたら良いなと思っています。</p> |
| 加藤市長   | <p>全部やろうと思うから難しくなる。阿賀野市では何ができるかを考えれば良い。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 古田島補佐  | <p>試合の勝敗は、教える側とすると勝って初めてうれしい楽しいってなる、というところがあります。スポーツを一生懸命してきた人は、やっぱり勝たなきゃ面白くないよね、というのベースにあります。楽しいだけじゃ、みんなでワイワイじゃだめだね、というところが、元々スポ少の指導者が多いので、そこがすごく難しいです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 加藤市長   | <p>達成感を考えると勝敗も大事。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 渡邊職務代理 | <p>私としては教師の負担軽減を考慮している、それが一番だと思っていました。ただ、国の方ではそうではなく、地域全体で将来にわたって子供たちが継続して成長していく過程を作りましようとなると、難しすぎる面もあると思います。</p> <p>中体連、スポーツ協会との関係もありますし、先ほどからスポ少の継続という話もありました。私もスポーツ少年団のミニバスケットの女子の指導を5～6年しました。そこでの目標は結局、各種大会を勝ち抜いて県大会に行くっていうのが理想です。それもとりにあえずクリアさせてもらって、その次、スポ少から中体連に行くときに、この子供たちの指導をどうしようか、というところで、たまたまそのときPTA会長だったので、学校と話をし、部活動</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

は通常どおり顧問に指導してもらって、保護者との連携でスポーツ少年団という形で夜練習させてもらえますかと、体育館の使用も空き時間を見て中学校の体育館を使用させてください、土日の練習試合もこことやりたいから顧問の先生に申込みだけしてください、橋渡しだけしていただいて、土日は顧問の先生については都合がつけば来てもらって子供たちを見てもらえればありがたいし、あとは全て保護者が遠征の準備をして、審判も保護者がする、大会参加費も保護者負担でやるので、そのような形で見守ってもらいたいと言って、部活動は部活動として指導してください、という形でやってきていました。

今回、地域移行という話になったときに、今更とは思いますが、やはり教師の負担軽減が目的なのだろうと思います。

各中学校を回って地域移行について校長先生に聞いたとき、水原中学校は教員が定時に帰れるように、4時半には部活動を終えて5時には教師も全員帰れるようにするのが理想だという話でした。ただそこで問題になるのは、7時からスポ少の活動があるだろうから、それまでの間、5時から7時までの2時間、子供たちがどこにいるのか、それが把握できるのかというところだと思います。

学校としてはその時間に勉強してもらいたい、先生方も体を休めながらも、次の指導に対する課題を作ってもらいたいという時間を与えるということで、理想のやり方をしてくれるんだろうなと思って聞いていました。各中学校も来年度から同様に短縮にしてそういう構図で進めたいということでした。

そうすると地域展開になったときに、確かに総合型クラブもあります。ただスポ少の指導者ではもう全然感覚が違って、勝敗にこだわるのがスポ少の指導者です。なぜこだわるかというと、次の試合もさせてあげたい、それによって子供たちが成長する、ここで終わったのとその先までいったのでは子供たちは達成感が違ってきます。

地域展開も悪くはないですが、日中は指導できません、土日のみですとなってしまいます。地域クラブの指導者はしっかりした指導者が選ばれているので、その人たちからもその点について聞いてみたいです。

加藤市長

渡邊さんのように、学校とうまく連携が取れる、話をしながらベクトルを合わせるというのができていれば良いですね。

古田島補佐

10クラブの指導者には結構学校の先生も含まれています。

加藤市長

そういう意味では阿賀野市はいろいろ課題を抱えながらも緩やかに少しずつ良い方向に向かっていますね。

古田島補佐

他の自治体からも阿賀野市は良いねとされています。

他の例ですと、総合型クラブですとか外部団体に運営を完全に委託してしまっているところもありますが、それはそれでいろんな課題が生じているようです。

阿賀野市は市が主体的にずっと関わって動かしてきた、そして結構進んできているというのは良いということらしいです。

加藤市長

スポーツ系は今の流れで少しずつ形づけられていくのかな、という感じはしています。

小泉教育長

皆さんのご意見を聞いていて、本当に阿賀野市は地域の指導者、そして学校関係者の皆さんのご協力を得て順調に進んでいる方だというのが確認できました。

この部活動の地域展開というタイトルにあるように、まず既存の中学校の部活動を、いかに休日に地域で教えられるようにしていくかというのが今の一番の目的ですので、阿賀野市は令和8年度までに既存の部活動の、特にスポーツ関係については全部休日地域展開したいし、文化部の中でも唯一土曜日活動している吹奏楽部については、何とか地域展開の方向でいきたいというので、一生懸命苦労してやってきました。

ですが、市長や皆さんもおっしゃるように、実はスポーツ少年団というのが昔からあって例えばサッカーであったり、空手であったり、ダンスであったり、様々な部活動にはない種目を、一生懸命楽しんで練習している子供さんもいっぱいいるので、令和8年度以降は、佐久間

委員がおっしゃったように、部活動にはない種目をどういうふうにしていくのか。地域クラブと一体化していくのか、別々の方向でそれぞれの目的に向かって進んでいくかっていうのも、考えていかなければと思います。

そして、文化部の吹奏楽部ですが、こちらの方も担当者が、学校関係者以外の指導者を2人確保しまして、今部活動指導員という形で行ってくださっていますが、会場は自分の学校の音楽室でないと楽器の運搬が難しいので、他の市町村も本当に苦勞なさっていたんですが、先週の会議でお聞きしたところは4つの中学校があって4つの吹奏楽部があって、4人の指導者を確保して、それぞれの学校に行ってもらっているという話を聞いて、うちはまだ4名は確保できてないけれども、もしもその指導者がやってくれるのであれば、午前2時間、午後2時間という形で4校の指導ができるかなというところも、私の心の中には今考えて課長にお伝えしていました。その辺もまた皆さんのご意見を聞きながら、本当に一步一步無い道をつけながら進んでいっている状況で、こういった皆さん、小川委員からも大変良いご意見をいただいて、部活動だけではなくて新しい形のスポーツ文化を楽しむようなクラブにしてもらいたいという要請も本当に私もそう思っているんで、今日はたくさんのご意見をいただいて良かったです。

福井委員、また何かお気づきのことで質問でもありましたらお願いします。

福井委員

実際にうちの子もスポーツ少年団で活動していて、その指導者さんからの上がってくる声としても、やっぱり地域全体で支えるっていうところに必ず保護者が関わる必要が出てきたというところがあります。今まで部活動であれば、保護者が積極的に送り迎えをするっていうことが生じていなかったし、スポーツをしたい子は学校に行けばできる、音楽をしたい子も学校に行けばできるっていうのが当たり前だったところから、地域移行することによって夜間であれば今日はどこの体育館っていう度に保護者が送らなければいけない、参加したいけど送ってもらえる人がいないので休みます、という現状が生じているというところで、スポーツを楽しむことが実際はできなくなっているから地域移行したことによってそこに弊害が生じているっていう声が上がっているのが実際です。

子供たちにとっても部活であれば今まで義務のように何かに所属してやっていた、学校でやる1時間2時間が自分たちのスポーツをする時間だと思っていたところ、地域移行することによってそれ以外の平日も時間を取られることになりました。

そこは考えていなかった、自分たちは部活をしたかったであって、スポーツ少年団と合わせて参加する部分は望んでいなかったけれども、部活動としてそこも活動拠点だと言われたら参加せざるをえなくなった、だから思っていたのと違った、という声も実際に生徒から上がっているそうです。

そこまで熱心にやろうというよりはスポーツを楽しみたかっただけなのに、もっとこう熱心なものに参加しなければいけない、親に送ってもらわなければ行けない、でも親に送ってもらえないので今日は行けない、そういう家庭の事情がすごく複雑に絡んでいます。親もう積極的に関わらなきゃいけない、でも仕事もあって当然、家庭の事情もあって当然、というところで子供がスポーツをしにくくなった、文化活動に参加しにくくなった、というのも現実としてあるのかなと思います。

加藤市長

子供目線で言えば、スポ少で一生懸命がんばっていて大会で良い成績を残したい子もいれば今の話のようにそこまで一生懸命でない子もいて、これはそれぞれなので、仕方ないかな。

ただ親御さんの送り迎えについては、これは課題のところにも出てきていますけども、想定されたことなんですよ。

地域クラブに移行すれば、30代40代の親御さんと祖父母がいて、祖父母が送迎してくれる、という世帯構成では今はない中で、そういうことができなくなるのがわかっているんで、これは自治会長会議のときにも話題になったりします。国は地域展開をやれやれと言っているけれども実際できないよ、と。そのところを国がどう考えているか提示してくれないと、地域だけでは何もできない、となってしまう。

小泉教育長

全国共通の課題だと思います。

ただ、今までその放課後の時間の部活動は、教師が勤務時間外で本当に献身的に、子供たち

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>のために、地域のために、と頑張ってきた。でも、もうそれはこれ以上続けられないよねっていう事情もあるので、総合的に様々な観点から多角的に考えていただきたいなと思います。</p>                                                                                                                                                                                      |
| 渡邊職務代理 | <p>確認ですが、部活動は中学校からはなくならないですよ。活動時間が短くなるだけで。</p>                                                                                                                                                                                                                                  |
| 小泉教育長  | <p>阿賀野市はそうですが、新潟市はなくなっている学校もあります。</p>                                                                                                                                                                                                                                           |
| 渡邊職務代理 | <p>地域クラブには行きたい子供だけが行くのか。部活動と地域クラブ、どちらに所属しても良いですよ、というのが今の規定でしょうか。</p>                                                                                                                                                                                                            |
| 古田島補佐  | <p>土日はやめるけれども、平日については部活をしてくださいということで学校にもお願いしていますし、市としてもなかなか平日も全部地域クラブにするのは難しいのでお願いしますということにはしていますけれども、実際部員がいなくて、部活動が成り立っていないものがあります。部員が2人しかいない、チームが組めませんとなって、活動を中止した部活もあります。</p> <p>必然的にやめてしまっている部活動もあるというのもありますし、最終的には、全部地域移行して部活動はなしにする、というのが国の目標です。</p>                      |
| 渡邊職務代理 | <p>部員が減少してチームが成り立たないから、例えば来年度から廃部にしますよ、休部にしますよ、と中学校の部活動についてそのような説明をされたこともありました。</p>                                                                                                                                                                                             |
| 小川委員   | <p>もう部活というものを解体して、これまで当たり前だった部活はもう全くないものとして考えた方が良いかもしれません。</p> <p>部活動自体が何で休日に行われるのが当たり前になったのだろう、と思います。部活動は学校で今までやっていましたが、いつの間にか休日まで子供たちが学校で部活をする環境にさせられていたのではないかな、と感じます。</p> <p>休日は家で過ごすとか自分のやりたいことをするとか。阿賀野市でも生涯学習課でいろんなイベントをやるじゃないですか。そういう自分のやりたいことを休日にやれる、やる、やっていたと思います。</p> |
| 塚野課長   | <p>土日でないと練習試合、対外試合ができない、というのもあります。</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
| 小川委員   | <p>中体連などが作り上げてきた勝負の世界があるのかもしれないですが。</p> <p>休日まで部活やらなきゃいけないようなやらないほうがおかしいっていうような。</p>                                                                                                                                                                                            |
| 小泉教育長  | <p>やったからには上手になりたいし、試合があればできれば勝ちたいし、負ければ悔しくてもっと頑張って練習して、もっと上手になりたいと思ってしまう。</p>                                                                                                                                                                                                   |
| 小川委員   | <p>保護者もその考え方を取り払って、部活に頼らない、もっと広く生涯学習ができるような阿賀野市になっていく転換期だと思います。</p>                                                                                                                                                                                                             |
| 加藤市長   | <p>どのようにスポーツに関わるか、吹奏楽に関わるかは、最後に選択するのは子供たちだから、子供たちが選択するとき、これしかありませんよっていうのではなくてこういうやり方もありますよと。スポ少もあれば地域クラブもあります、となっていくと思っています。</p> <p>ただ選択肢を狭めないということ。その中で競技志向となるのも選択。</p>                                                                                                        |
| 佐久間委員  | <p>私ずっと絡まっていて、色々な問題があって絡まっていたのですが、市長がおっしゃったことでその絡まりが解ける気がしました。</p> <p>課題が想定できている、というのはすごく良いことだと思います。やはり課題が絡みあったときは一つ一つ解決していくということですよ。</p>                                                                                                                                       |
| 加藤市長   | <p>我々も最初から決めてかかってアプローチしがちになるから、我々ももう少し受入れの広</p>                                                                                                                                                                                                                                 |

|        |                                                                                                                                                                                                                               |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | さと強さを持てば、結果は違ってくると思います。                                                                                                                                                                                                       |
| 渡邊職務代理 | 地域移行に携わる指導者に対しては、例えば1学期ごとでも良いですが、振り返りをしてもらって皆さんに提示したりした方が良いと思います。                                                                                                                                                             |
| 加藤市長   | 渡邊委員のおっしゃるとおり確認は大事ですね。それからいろいろな案件がありますので、その案件の進捗・処理状況、あるいは事故防止のため確認などは、定期的に行う必要があると思います。                                                                                                                                      |
| 古田島補佐  | その点についてはマニュアルなどを作成して配布していますし、9月に研修を行う予定でもあります。なるべくそういう機会を設けていきます。<br>地域クラブの活動が始まって3年目で、徐々に活動が根付いているところですが、指導者の皆さんの思いが熱いので、それぞれの考え方があるところで、なるべく指導者の皆さんで集まって、ある程度統一的な方針を定めた中で進めていきたいなと思っています。                                   |
| 加藤市長   | ベクトルを合わせれば良いのだけれども、ベクトルをギュッと縮めてまとめようとするのではなく、ベクトルに幅を持たせて同じ方向に進めていけば良い。                                                                                                                                                        |
| 加藤市長   | 阿賀野市にはB B ラビッツの選手が1人いるので、もう少し彼女をうまく活用したいなと思っています。ある資源はうまく活用していきたいと思います。                                                                                                                                                       |
| 加藤市長   | 今日は時間がないので、すいませんが、吹奏楽の部分については次の宿題にしましょう。楽器の運搬など、色々と課題がありますので。                                                                                                                                                                 |
| 渡邊職務代理 | 前の話ですが、吹奏楽でも、顧問が新婚で子供が産まれたばかりで土日休ませてほしいと話があったときに、保護者からブーイングが出て、何とかしてくれと言われたことがありました。休みたいというのは仕方ないだろうということになりました。<br>そこで、保護者が学校の鍵をお借りして、保護者が音楽室で活動を見ている、ということをして1年間やりました。<br>そうすると、活動をやることはやるのだけれども、指導者がいないので、演奏が揃わず大変だったそうです。 |
| 加藤市長   | そういうときは、生徒の中でキャプテン・リーダーを決めて、保護者から指示すれば良かったかもしれない。保護者のマネジメントが悪かった。                                                                                                                                                             |
| 五十嵐課長  | 時間の都合もありましてこれにて閉会とさせていただきます。<br>本日議論しきれなかった部分については次回以降議論させていただければと思います。                                                                                                                                                       |
| 加藤市長   | 本日はありがとうございました。                                                                                                                                                                                                               |

午後4時15分 閉会